

ジョブローテーション、乗務員勤務制度改悪、ダイ改合理化、ローカル線切り捨て反対！ 定年延長と65歳まで働ける職場を！

全国に広がるローカル線 存続の闘い



【芸備線】 広島県庄原市

3月26日、JR芸備線・備中神代駅（岡山県）―備後庄原（広島県）駅間の存廃等に関して全国初の「再構築協議会」会合が開かれました。その2日前、芸備線存続に向けての市民集会在沿線の庄原市で開かれ約400人が集まりました。

「廃線は沿線の人口減少を加速させる。赤字を基準に判断すべきではない」「芸備線は接続が悪く使いたくても使えない」「（運動を）全国的なネットワークに広げていきたい」といった訴えが行われました。

【米坂線】 新潟県村上市

「米坂線の早期復旧と地域活性化を考える会」は23年11月に発足し、会員はすでに200人超です。4月には2500筆の署名を提出。「年をとれば運転できなくなる。バスも運転手がいなくなり廃止される。どうやって生きていくのか」という切実な声があがっています。

【米坂線】 山形県飯豊町

5月19日には沿線自治体の元教育長が講演する集会に約70人が参加。「地域の交通サービスは公が維持するべきで、赤字を理由に切ってはいけない」「鉄道がなくなると地盤沈下が進む」と鉄道存続の重要性を訴えました。



【米坂線】 山形県

5月31日、米坂線復旧をすすめる飯豊の会の設立総会が開催されました。沿線の飯豊町、小国町と新潟県関川村の首長や議長らも出席し、署名活動などの取り組みが報告されました。



去年6月～今年3月に集めた約1万人分の署名をJR東日本に提出

6月17日、山形県では「JR米坂線開業百周年記念事業実行委員会」が早期の復旧を求め、約1万人分の署名をJR東日本に提出しました。さらに7月以降、約1万1500人分の署名を提出予定です。